

高冷地産サクラソウの夏越しについて

河野 清 人

低地における高冷地産サクラソウの栽培については、いまだ適切な方法が確立されておらず、とくに夏越しは困難で、高温によって株が衰弱したり枯死することが多い。

高冷地産サクラソウの夏越し法については、小田倉(1977)が二期栽培としてテシオコザクラ、エゾコザクラ、オオサクラソウを用いて夏期冷蔵処理を行う方法を報告している。

この冷蔵処理による夏越し法が、広島地方においても有効かどうか、また、テシオコザクラやエゾコザクラ以外の高冷地産のサクラソウについても有効であるかを試みたので、その結果を報告する。

材料及び方法

高冷地産サクラソウ10種(変種を含む)、各5株(一部7株)を供試した。春に入手し、鉢植えにし通常の方法により管理していた株を昭和57年7月22日に掘り上げ、水洗後湿らせた水苔で根部をくるみ、ポリエチレン袋に密封し、2~5℃暗黒条件下の冷蔵庫に入れ冷蔵処理を行った。処理期間は60日間とし、9月19日に処理を打切り、翌日鉢に植え付け、その後は通常

の管理を行った。

結果と考察

処理終了時における株の状態は、第1表のとおりである。ヒダカイワザクラ、コイワザクラ、テシオコザクラ及びシナノコザクラの4種については、すべての株が良好であった。クモイコザクラ及びカマナシコザクラは、5株中3株が良好で残り2株は枯死していた。また、ミチノクコザクラ及びヒナザクラは5株中2株が良好で3株は枯死していた。ハクサンコザクラ、ユキワリソウ、ユキワリコザクラ及びネムロコザクラの4種は、すべての株が枯死していた。なお、ユキワリコザクラのアポイ岳産の株は、5株中1株だけ良好であった。

枯死した株は、処理終了時の観察ではすべて葉柄及び芽の部分が腐敗していた。

以上の結果から、今回供試した、10種の冷蔵処理に対する適応性については、次の3グループに分けることができる。

グループA……ヒダカイワザクラ、コイワザクラ、テシオコザクラ、シナノコザクラ

グループB……クモイコザクラ、カマナシコザクラ、ミチノクコザクラ、ヒナザクラ

グループC……ハクサンコザクラ、ユキワリソウ、ユキワリコザクラ、ネムロコザクラ

グループAの4種については、今回の冷蔵処

第1表 高冷地産サクラソウの夏期冷蔵処理結果

供 試 植 物	供試株数	処理終了時の状態	
		生 存	枯 死
ハクサンコザクラ <i>P. cuneifolia</i> var. <i>hakusanensis</i>	5 株	0 株	5 株
ミチノクコザクラ <i>P. c.</i> var. <i>heterodonta</i>	5	2	3
ヒナザクラ <i>P. c.</i> var. <i>tanigawaensis</i>	5	2	3
ヒダカイワザクラ <i>P. hidakana</i>	5	5	0
ユキワリソウ(オオバナユキワリソウ) <i>P. modesta</i>	5	0	5
ユキワリコザクラ <i>P. m.</i> var. <i>fauriei</i>	5	0	5
ユキワリコザクラ(アポイ岳産) "	5	1	4
ネムロコザクラ(ユキワリコザクラ根室産) "	5	0	5
コイワザクラ(箱根産) <i>P. reinii</i>	7	7	0
クモイザクラ <i>P. r.</i> var. <i>kitadakensis</i>	5	3	2
テシオコザクラ <i>P. takedana</i>	7	7	0
シナノコザクラ <i>P. tosaensis</i> var. <i>brachycarpa</i>	5	5	0
カマナシコザクラ "	5	3	2

注) 1. 冷蔵処理; 昭和57年7月22日~9月19日(60日間), 2~5℃暗黒条件



ユキワリコザクラ

理による夏越し栽培が十分可能であり、グループBの4種は、ほぼ半数の株が良好であったことから、処理開始時及び処理中に殺菌剤などの散布を行って腐敗防止を行えば、冷蔵処理が可能と思われる。しかし、グループCの4種については、今回の方法による冷蔵処理では困難とみなすことができる。

次に各グループに含まれる種について分類上の位置との関係を調べてみた。その結果、グループAは、すべて分類上サクラソウ亜属に含まれ

る種で構成されており、一方冷蔵処理が困難であったと思われるグループCは、エゾコザクラ亜属及びユキワリソウ亜属の種から成りたっていた。また、中間的な結果を示したグループBは、上記3亜属のものが混っていた。

このことから、高冷地産サクラソウの夏期冷蔵処理の適応性については、おおむねその種が含まれる亜属によって特徴づけられると思われる。すなわち、サクラソウ亜属に含まれる種は夏期冷蔵処理が適し、エゾコザクラ及びユキワリソウ両亜属に含まれる種は困難と考えることができる。ただし、同じ種であっても産地のちがいにより、適応性に多少変化が生じるようである。

今回行った処理で枯死した株は、すべて腐敗していたことから、処理中の腐敗防止が重要で十分腐敗を防止できれば、今回よい結果が得られなかったエゾコザクラ及びユキワリソウ両亜属に含まれる種であっても、夏期冷蔵処理が可能になると考えられる。このことについては、今後ひきつづき検討してゆきたい。

参考文献

小田倉正罔, 1977, 夏の越しかたと二期栽培, 野生のサクラソウ. 誠文堂新光社

第2表 日本産サクラソウの分類

(「野生のサクラソウ」
誠文堂新光社, 1977 から引用)

亜属	属	節	種	亜種または変種
エゾコザクラ	エゾコザクラ	エゾコザクラ	エゾコザクラ	エゾコザクラ
			ヒナザクラ	ヒナザクラ
ユキワリソウ	ユキワリソウ	クリンソウ	クリンソウ	クリンソウ
		ユキワリソウ	ユキワリソウ	ユキワリソウ
			ユキワリコザクラ	ユキワリコザクラ
			レブンコザクラ	レブンコザクラ
			ソラチコザクラ	ソラチコザクラ
			ユウバリコザクラ	ユウバリコザクラ
			ヒメコザクラ	ヒメコザクラ
サクラソウ	サクラソウ	サクラソウ	サクラソウ	サクラソウ
		カッコソウ	カッコソウ	
		オオサクラソウ	オオサクラソウ	
		エゾオオサクラソウ	エゾオオサクラソウ	
		テシオコザクラ	テシオコザクラ	
	テシオコザクラ	ヒダカイワザクラ	ヒダカイワザクラ	
		カムイコザクラ	カムイコザクラ	
	コイワザクラ	コイワザクラ	イワザクラ	イワザクラ
			シナノコザクラ	シナノコザクラ
			チチブイワザクラ	チチブイワザクラ
		コイワザクラ	コイワザクラ	コイワザクラ
クモイコザクラ			クモイコザクラ	
ミョウギイワザクラ			ミョウギイワザクラ	